

宇都宮市立宝木小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分によいところはありますか」という設問に対する肯定割合は全国平均より12.1ポイント高い。感染症予防等で行事や活動の制限はあったが、冒険活動教室や各クラスで実施している称賛活動等で自分のよさを実感できる機会があり、自己肯定感がもてていることが分かる。今後も、活動を通して自分のよさや成長を実感できるよう、自己や他者評価を取り入れたり、認め合う機会を設けたりしていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないと思いますか」という設問に対する肯定割合は99%と高く、全国平均と比べても3.1ポイント高い。普段の生活や道徳、授業の中で、繰り返しいじめについて考え、指導してきた成果と考えられる。いじめはいけないと理解できていることから、自分の行動がいじめにあたるかもしれないと客観的に判断し実行できる実践力に結び付くよう、きめ細かな目配りと支援を実施していきたい。

○「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」という設問に対する肯定割合は97.2%で、全国平均より12.8ポイント高い。ICT機器を使う頻度を問う調査結果も全国と比較して高いことから、ICT機器を使う機会が多く、活用が進んでいる成果と考えられる。今後はただ使うだけでなく、自分の考えを効果的に整理したり多様な方法で表現したりできるよう、さまざまな活用方法を紹介し、学びの質が深まる取り組みにつなげていきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」では、1時間以上学習時間を確保している児童が、全国平均より2.3ポイント低い。学習時間が1時間に満たない児童も42.8%おり、約半分の児童が目標とする学習時間より短くなっていることが分かる。学習内容の確実な定着を目指すためには、家庭での学習時間の確保が必要である。今後は、家庭学習の必要性を児童だけでなく、学年だより等で保護者に周知することで家庭にも協力してもらい、家庭で学習する習慣を身に付けさせていきたい。また、児童に学習時間や学習内容を記録する機会を設け、自分の学習への取り組みについて見直す機会を設けていきたい。

●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の設問に対しての肯定割合は45.7%で全国平均より7ポイント低い。感染予防の観点などから地域での活動が開催されていないことが要因の一つと考えられる。感染状況を鑑みながら、実施できるよう大人が配慮することで児童の育成に必要な活動を確保していきたい。

●「算数は好きですか」の設問の肯定割合は58.1%で全国平均より4.4ポイント低く、当てはまらないと回答した児童は22.9%で全国平均より5.8ポイント高いことから、算数が好きな児童が少なく、嫌いな児童が多いことが分かる。算数の調査結果からも分かるように、内容の理解に課題が見られる。できないことから苦手意識が高まり、嫌いになると考えられる。習熟度別学習や少人数学習を取り入れ、できる喜びを味わえるよう授業を工夫改善していきたい。また、計算など繰り返し練習することで定着する内容については家庭学習とも連携し、宿題などに組み込むことで基礎的な力の定着を目指し、算数が好きな児童の育成を図りたい。